

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 21 日現在

機関番号：13801

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2015～2016

課題番号：15H06250

研究課題名（和文）地理教員の養成研修一体型モデルの研究と展開

研究課題名（英文）Development model of geography teacher in university education and in-service training.

研究代表者

山本 隆太（Yamamoto, Ryuta）

静岡大学・教職センター・研究員

研究者番号：80608836

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、高度な教科指導力を有する地理教員の養成・研修モデルのあり方について、日本に先行するドイツを参照することで「ドイツ型地理教員養成モデル」をその教育政策や学術的な背景とともに明らかにすることである。またこのモデルを検討することで、教員養成研修において段階的に獲得する地理教員コンピテンシーを明らかにすることに加えて、実践志向の教員養成・研修における研究能力の育成の重要性や、ESD実践に向けた地理教員養成研修に対する地理学と地理教育の連携の必要性を論じた。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research is to describe the development model of geography teacher in university education and in-service training by referring to Germany preceding Japan about the model and clarify it's educational political and academical background. In addition to clarifying the 5 step model of geographical educational competences of teachers, this study find the significance of research competence within the context of practice-oriented teacher education and in-service training and of co-work between academical geographer and geography education researcher for implementing geography education for sustainable development.

研究分野：地理学，地理教育，教師教育

キーワード：地理教育 教員養成・研修 教員養成スタンダード 教職コンピテンシー 地理教員 ドイツ

1. 研究開始当初の背景

急激な社会の変化に伴い学校教員の絶え間ない資質向上が不可避となった現在、教職全体に渡る視点に立ち、大学での養成と研修を一体化した教師教育を構想する必要がある。とりわけ、学校教員の日々の授業実践の多くは教科教育であることから、養成と研修を通じて一貫した教科教育力のあり方を示すことが求められている。しかし地理教育では教員養成と研修を一体的に捉えた研究はほとんどみあたらない。

そこで本研究では、教員養成・研修一体化で先行するドイツに着目した。ドイツは2000年代の教育改革の中で、教員養成・研修についても改革が行われ、これに合わせて地理教育の研究領域においても教員養成・研修の研究に大きな注目が集まっていた。

ドイツでは日本と同様、大学において教員養成が行われている。ただし、大学での理論を軸とした養成に続いて、ドイツでは、教育実践機関での実践的な養成が1.5年から2年程度行われる(試補制度)。さらに近年の教職改革により、教職についた後にも研修を受けるケースが増加している。

ドイツ地理教育ではこの間、到達すべき水準を示した「教育スタンダード」を中心として、コンピテンシーの育成やESD(持続可能な発展のための教育)についての議論が蓄積されていた。これらは日本でも議論が進められている論点である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ドイツの地理教員・研修一体型モデルを明らかにすることである。その際、ドイツ地理教育で盛んに議論されているコンピテンシーやESDの扱われ方に注目する。

3. 研究の方法

本研究では、ドイツの地理教員・研修一体型モデルを明らかにするため、以下の手順で研究を行う。

(1)ドイツ国内の地理教員の養成・研修研究に関する文献を調査する。

(2)ドイツ国内の大学における教員養成・研修の事例を収集し検討する。

また、現地調査により学校教員、大学教員、試補セミナー教員に対してヒアリングを行う。

以上の成果を基に教員養成・研修一体型モデルを明らかにする。

4. 研究成果

(1)ドイツの地理教員の養成・研修研究の動向

ドイツにおける地理教育研究のうち、教員養成と教員研修に関する研究を整理した。これらの研究から、地理教員養成・研修の一体化の議論については1997年のニュルンベル

ク宣言を一つの契機としつつ、2008年の各州文部大臣会議が公表した教員養成スタンダードの影響を大きく受け、養成研修一体化の意識が醸成されてきた。その結果、2002年頃からは地理教員の養成に関する論文が、2014年頃からは研修に関する論文が増加した。

養成に関する研究は、教員のコンピテンシーに関する研究やその養成モデルが中心である。研修に関する研究も同様にコンピテンシーに関するものが大多数を占める。

教員のコンピテンシーに注目が集まった背景にはESDがある。ESDとコンピテンシーには、応用的(創造的)な学力の育成という共通点があるが、これがドイツ地理教員養成研修の大きな課題となっていたためと考えられる。

(2)ドイツ地理教員養成・研修一体型モデル

前述の研究成果(1)に基づき、近年の地理教育分野における教員養成・研修研究は地理教育研究者であるHemmerとUphuesが中心的な役割を担っていることが明らかになった。そこで、HemmerとUphuesに着目し、彼らが地理教員養成・研修の実績に基づいて開発したモデルを取り上げた。

このモデルで示される内容と能力は以下の通りである。

自らの学校での学習体験を省察する「状況把握」

(自分が抱く教員増と自らの地理授業の学習経験を省察する能力)

講義とゼミによる学びを中心とした「基礎」

(地理教育の基礎的な理論とスタンスならびに地理の目標と内容について分析する能力)

文献読解を軸として革新的な授業構築を試みる「プロフェッショナル化」

(アクチュアルな地理教育の課題と研究成果を省察した上で受容する能力)

テーマを設定し地理教育研究を進める「専門化」

(地理教育的な課題を独自に設定し実証的な試験を行う能力)

自律的に研修を構築し学び続ける「研修」

(自身の授業実践に対して恒常的な省察と改善を行う能力態度)

以上のように、5段階での地理教員養成・研修一体型モデルが示されている。そこでは一貫して、「自らの研究活動を通じて学校教育での学びを検討できる資質」が重視されている。

このモデルからは、教員能力の基礎として文献読解などの研究能力が非常に重要な能力資質として位置づけられていることが明らかにされる。他方、ドイツ独自の「試補」についての言及がないことから、養成・研修と試補の間に未だコミュニケーションの欠

如が存在することが示唆される。しかしながら、大学や試補など様々な主体が各教員の教師教育全体に関わることに、創発的な価値があることにも注目する必要がある。

また上記から、以下の点が明らかになった。

(3)実践志向の中での研究能力の育成

日独ともに教員の実践志向の養成・研修が求められている。とりわけドイツでは、理論的教員養成を担う大学の教職課程に対して学校インターンが導入されるなど、教員候補生が学校現場で実践的に学ぶことが重視されている。その一方で、大学では文献購読を中心とした研究能力の育成が重視されていた。これは、生涯にわたり学び続ける教師として、その継続的な研鑽を支えるだけの教科教育研究能力を大学で育成することが意図されているといえる。

(4)地理教員としての分離融合的な資質

地理は「自然と人間の関係」を扱う文理融合的な科目であり、この科目的特徴にこそESDとの共通点がある。

この「自然と人間の関係」を扱うコンピテンシーを、教員養成を通じて養うためには、親学問である地理学における、自然と人間の関係に関わる、分離融合的なコンピテンシーが明示される必要がある。その上で初めて、文理融合的な視点に立った地理教育的ESD実践能力が明らかにされることとなる。

この意味においても地理教育と地理学の連携をより一層強める必要がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計7件)

1. 山本隆太 2017. ドイツにおけるコンピテンシー志向の地理教員養成・研修モデル教科教育力、教育研究能力の育成を軸に. 静岡大学教育研究 13, 15-22. 山本隆太
2. 山本隆太・松尾由希子 2017. 特別活動における自然体験活動に関する考察 ジオパークを活用した地域連携, 教科横断的な学習に向けて 静岡大学教育実践総合センター紀要 26, 211-216
3. 山本隆太・田中岳人 2017. 地理学習におけるシステム思考を導入したESD授業実践 - 「アラル海の縮小」を事例として - 教育と研究 35, 57-78.
4. 山本隆太 2016. ドイツ地理科カリキュラムにおける総合性とシステムの視座. 静岡大学大学教育センター12, 1-10.
5. 山本隆太 2016. 地理学習におけるシステム思考を用いたコンピテンシー開発論に関する一考察 - 学問研究と教科教育の架橋 - 教育と研究 34, 89-106.
6. タニシルパ, 山本隆太 2016. フィンラン

ドの学校における地理と ESD. 新地理 64-1, 29-33.

7. 山本隆太 2015. ドイツにおける地理科の教員養成・研修に関する近年の動向. 早稲田大学大学院教育学研究科紀要別冊 23-2, 135-145.

〔学会発表〕(計8件)

1. 阪上弘彬, 山本隆太 2017. ドイツの州カリキュラムにおけるシステムの位置づけに関する考察. 日本地理学会 2017 年春季学術大会. 805. 口頭発表.
2. 泉貴久, 金田啓珠, 山本隆太 2017. システムアプローチの見方・考え方を用いた地理授業実践. 日本地理学会 2017 年春季学術大会. 803. 口頭発表.
3. 山本隆太, 梅村松秀 2017. システムアプローチと地理教育. 日本社会科教育学会 66 回全国研究大会(弘前大学)自由研究発表 1-5-(5), 口頭発表.
4. 泉 貴久・河合豊明・中村洋介・山本隆太 2016. 地理システムコンピテンシーに基づいた授業プランの提案 「地理総合(仮称)」を見据えて. 日本地理教育学会第 66 回大会. 発表番号 232. 口頭発表.
5. 吉田裕幸, 飯村諭, 山本隆太 2016. 地学の視点を取り入れた地理学習の意義 ~ 「ジオパーク」「土壌」をテーマにした地理 B の授業実践を通じて ~ 日本地理教育学会第 66 回大会. 発表番号 132. 口頭発表
6. 山本隆太 2016. ドイツ地理教育におけるシステム思考を用いたコンピテンシー論とその教材の検討. 日本地理学会 2016 年春季学術大会. 発表番号 0103, 口頭発表.
7. Ryuta YAMAMOTO 2015. "System" misunderstanding and its consequence in Japan. Deutscher Kongress für Geographie 2015 Berlin. ポスター発表.
8. 山本隆太 2015. ドイツの教員養成・研修改革にみる教員の地理教授力向上策. 日本社会科教育学会 65 回全国研究大会. 口頭発表.

〔図書〕(計2件)

1. Sirpa Tani 著(山本隆太抄訳) 2017. フィンランドの地理教育とサステナビリティ教育. 井田仁康(編)教科教育におけるESDの実践と課題~地理・歴史・公民・社会科~ 古今書院. 258-260.
2. Ivy Tan 著(山本隆太抄訳) 2017. シンガポールの地理教育におけるESD. 井田仁康(編)教科教育におけるESDの実践と課題~地理・歴史・公民・社会科~ 古今書院. 282-284.

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)
なし

取得状況(計0件)

なし

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

山本隆太(Ryuta YAMAMOTO)

静岡大学・教職センター・学術研究員

研究者番号

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし

(4)研究協力者

なし